

# 付着生物ラーバ情報

## キヌマトイガイラーバが発生しました

### 1 ラーバ等の出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

#### (1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは奥内沖で12月26日に5.0個体/m<sup>3</sup>、1月9日に4.2個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で12月25日に5.0個体/m<sup>3</sup>、川内沖で12月25日に5.5個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図2)。

#### (2) ムラサキイガイ (通称：カラスガイ、シウリ)

ラーバは奥内沖で12月26日に261.7個体/m<sup>3</sup>、1月9日に170.1個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で12月25日に156.1個体/m<sup>3</sup>、1月9日に172.2個体/m<sup>3</sup>、野辺地沖で1月9日に372.7個体/m<sup>3</sup>、川内沖で12月25日に68.0個体/m<sup>3</sup>、1月11日に768.0個体/m<sup>3</sup>見られました(表1)。

#### (3) キヌマトイガイ (通称：コメガキ)

ラーバは野辺地沖で1月9日に41.4個体/m<sup>3</sup>、川内沖で1月11日に129.6個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図3)。

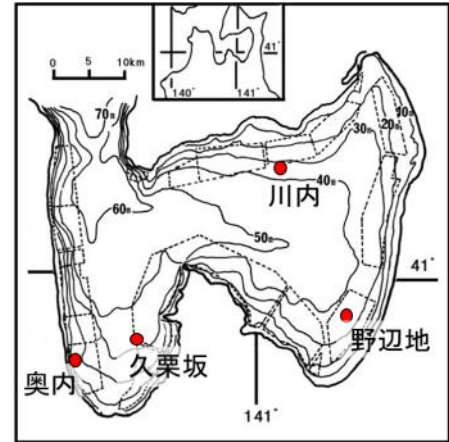


図1 ラーバ調査地点

### 2 今後の見込み

現在、陸奥湾内の中層の水温は西湾で10℃前後、東湾で6℃前後です。

#### (1) ユウレイボヤ

ラーバ累積出現数が10個体以下の場合には付着が少ないことが分かっています。奥内沖の累積ラーバ数が13.4個体/m<sup>3</sup>と10個体以上なので、ユウレイボヤの付着が多いパールネットが散見する可能性があります。

また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

#### (2) ムラサキイガイ

ラーバの出現数が増加していますが、秋から冬生まれのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

#### (3) キヌマトイガイ

ラーバが出現していることから、今後、籠や耳吊り、マボヤの採苗器へ付着するものと思われます。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ミネゾツホ	ムラサキイガイ	キヌマトイガイ	マボヤ	
							ラーバ	卵
奥内沖	R5.12.26	5.0	0.0	0.0	261.7	0.0	5.0	0.0
	R6.1.9	4.2	0.0	0.0	170.1	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	R5.12.25	5.0	0.6	0.0	156.1	0.0	0.6	32.8
	R6.1.9	0.0	0.0	0.0	172.2	0.0	0.6	1.7
野辺地沖	R6.1.9	0.0	0.0	0.0	372.7	41.4	0.0	0.0
川内沖	R5.12.25	5.5	0.8	0.0	68.0	0.0	0.0	0.0
	R6.1.11	0.0	0.0	0.8	768.0	129.6	0.0	0.0

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

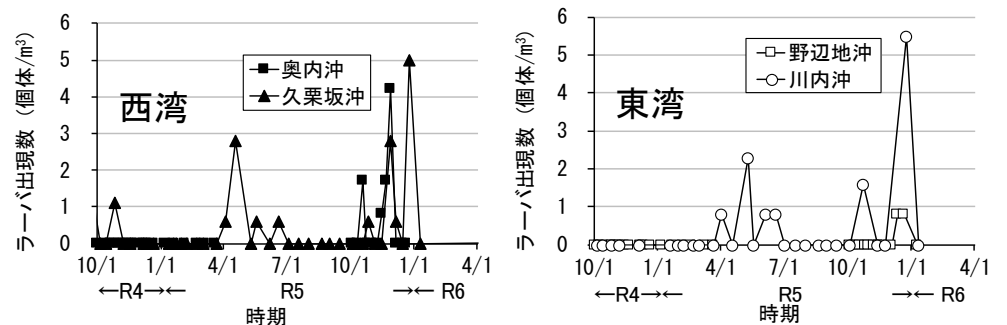


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(令和4年10月~令和6年1月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 25個体/m<sup>3</sup>、東湾 10個体/m<sup>3</sup>

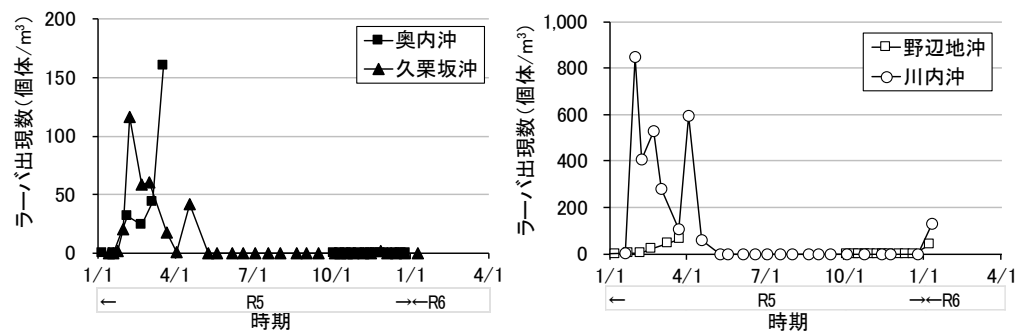


図3 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(令和5年1月~令和6年1月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 915個体/m<sup>3</sup>、東湾 4,483個体/m<sup>3</sup>

